育む

英会話力 どう伸ばす

外国人と交流■オンライン授業

中高一貫教育校の都立白鷗高校（東京・台東）は10月初旬、デンマークの高校から修学旅行生約30人を受け入れた。囲碁や将棋、茶道や生け花などを学ぶ高校2年の「日本文化概論」の授業に修学旅行生が参加し、同校の生徒が英語で作法やルールを教えた。

授業後の昼休みには高校1年の有志生徒も加わり昼食を食べながら交流会を開催。同校を紹介するプレゼンテーションを英語で披露した。プレゼンをした1年の女子生徒（16）は「授業で勉強した英語を実際に外国の人と使う機会は新鮮で面白い。もっと英語を話せるようになりたいと思った」と話した。

同校は今年度、同国やオーストラリアから計3回生徒を招き、7月には約10日間にわたるホームステイを受け入れた家庭もある。北鹿渡昭喜副校長は「同年代の外国人との交流は刺激になる。『読む・聞く・書く・話す』の4技能に加え、英語でプレゼンをする力も含めた〝5技能〟を伸ばす教育を目指している」と意気込む。

デンマークの修学旅行生に生け花を教える白鷗高校の生徒（10月初旬、東京都台東区）

新共通テストに民間試験

20年度の大学入学共通テストで導入される民間試験に備え実践的な英語力を身につけようと、高校や自治体は授業に工夫を凝らす。ただ、民間試験の活用方法は各大学とも定まっておらず、高校の現場からは「どこまで時間をかけてやるべきか」と戸惑いの声も上がっている。

教員向けに研修

東京都は進学指導に力を入れている高校を中心とした22校にタブレット端末を貸し出し、フィリピン人とインターネットを通じて英会話をする「オンライン英会話」の授業を実施している。また、16年度に都内の40校を「英語教育推進校」に指定。都教育委員会の指導主事が各校を訪問し、英語教員に授業方法の研修などを行っている。

文部科学省が17年度に行った公立中高への調査で、英検3級相当以上の中3と英検準2級相当以上の高3の割合が共に全国トップだった福井県。同県教委は「約20年前から英語の授業は英語でするなどしており、長年の努力が実った結果だ」と胸を張る。近年は外国人指導助手（ALT）を全公立中高に配置するほか、英検や「GTEC」など民間試験の受験料を補助することでさらなる英語力の底上げを図っている。

活用法に戸惑い

一方で、大学入学共通テストの実施は現在の高校1年が受験生になる20年度に迫る。東京大が9月、民間試験の受験を必須としない方針を示すなど、定まらない活用方法には戸惑いの声も上がる。

都立国立高校（東京都国立市）は練習として、GTECを受験させる予定だ。同校の北沢良浩副校長は「正式に認定された試験の中で金銭的な負担が少ない」と理由を説明。一方、「他の国立大の方針はまだ分からないので、民間試験が課されるものとして指導していくしかない」と不安ものぞかせる。

受験生が通う英語専門塾、平岡塾（東京・渋谷）の担当者は「言語はしっかりとした文法の土台の上に単語を並べていくもの」として、実践的な英会話ができるようになるためには十分な知識量が必要だと指摘。民間試験向けの特別な対策はしないといい、「基礎知識を身につけて初めて応用的な英語力が備わる。英会話の実践も大事だが、基本をおろそかにしてはいけない」としている。

（玉岡宏隆）

大学入試改革、公平性に課題

大学入試改革に伴い現行のセンター試験に代わって2020年度から実施される「大学入学共通テスト」。英語では「読む・聞く・書く・話す」の4技能を測るために民間試験が導入される。従来の「読む・聞く」に加え、英語を用いたコミュニケーション能力をはかる狙いがある。23年度まではマークシート式と併存し、24年度からは民間試験に一本化される見込みだ。

大学入試センターは実用英語技能検定（英検）やTOEICなど7団体8種類の試験を認定した。ただ、試験ごとに目的や実施方法が異なる点や、家庭の経済状態や学校の所在地によって受験機会に差が出てきやすい点など公平性の観点から課題を指摘する声も上がっている。

国立大学協会は3月、「民間試験の結果を2次試験の出願条件とするか、加点するか、両方を組み合わせるか」とするガイドラインを公表している。

大学入学共通テストの英語民間試験導入への流れ		
2018～19年度	センター試験	
20～23年度	マークシート方式（読む・聞く）	民間試験（読む・聞く・書く・話す）
24年度以降	民間試験に一本化	